

開催日時	平成26年12月25日（木）10時10分～11時35分
会 場	本校格技場
運営者の説明および出席者の意見交流の事項	
【教育課程全体会議にあたり】 ・今回、教育課程全体会議は最終回となっている。 ・再来年度（H28）の間口増は9割方可能性として高いため、「無理せず、できることから、ちょっとずつ」変更していきたいと考えている。 【①授業時間の設定について】 〈確認〉 ・1単位時間50分（45分－5分）。5分間の休憩時間。50分届出をする。 ・始業、終業のチャイムを鳴らす。現行よりもチャイムが多くなる。 〈質問・意見〉 ・特になし。 【②国語・数学の単位設定について】 〈確認〉 ・時数を増加する。各2単位に設定もしくは学年別での対応。 ・基礎基本の定着を図り、生活するために必要な国語力、数学力を身につける。 〈補足〉 ・全国的に学力の向上が求められている。（教頭） ・現在、1単位で設定されているが、前回は2～3週間前に実施などしっかりとした確保が行われていない。教科学習をしっかりと行うことは大切である。（教頭） ・各学年2単位で設定すると、どこかの教科の授業が削減されることを了承してほしい。作業学習は本校の教育活動の中で重要視されていることもあり削減対象にならない。体力づくりでは、しっかりとした働くための体をつくる必要があると考えている。以上のことなどを考慮すると、しわ寄せは教科にくることが考えられる。詳細は、教育課程委員会で検討したい。（金子 t） 〈質問・意見〉 ・水曜日の体力づくりを無くして時数を増加させればよいのではないかと。週5から週4に変更したことで体力が落ちるとは考えにくい。（田中 t） ・各学年別での対応であると助かる。作業学習を担当して、作業学習の中に教科学習で学んだことを生かす場面を設定していることもあり、作業学習の時間は現状のままであってほしい。生活単元学習も減らすことは現実的に厳しいのではないかと。2・3学年は弾力的な対応で、1学年は各2単位で行ってもよいのではないかと。（近藤和 t） ・1学年は教養を学ぶという観点で2単位、2・3学年は流動的な対応を取り入れてほしい。（中島 t） ・学校行事などの特別日課の振替の時数カウントはどのようになるのか。（矢倉 t） →年間35時間は確保したいが、2単位だと年間70時間の確保は他の教科の時数との関係もあるため絶対確保できるとは言えない。現場実習期間は、作業学習でカウントしている。その期間の教科の時数確保は現実的に難しい。（金子 t） ・特別日課のことを踏まえて、単位設定を行ったほうがよいのではないかと。（野呂 t）	

- ・現在、年間35時間を確保できているとは言えない。前回は2～3週間前ということもある。そのような中で前回、学習したことを身につけているとは言えない。2単位に設定しても、実際は1単位分が確保できるのかも保障はない。(教頭)

※1単位＝年間35時間分の届出。本校の現状は正式ではないが20時間ぐらいかもしれない。

2単位＝年間70時間分。体育や美術などが該当する。

3年間で1050単位の履修をしなければいけないという規定がある。

【③「情報」について】

〈確認〉

- ・教科で特出して実施しない。
- ・生活単元学習で3年間配列を組み実施する。
- ・内容は情報リテラシー、モラル、携帯電話などの情報機器による危険の理解などを行う。
- ・LHRでも題材に触れながら行う。

〈補足〉

- ・当初は、教科として1単位を考えていたが、生活単元学習の中で実施することになった。(教頭)
- ・1年間で準備期間としH28から実施する。来年度は、実施している他校の資料を取り寄せて参考として内容を精査していきたい。次年度は暫定的に実施を考えている。(金子 t)

〈質問・意見〉

- ・生活単元学習の内容が濃厚になり大変になることが予測される。担当しているクラスが来年度は3学年に進級することもあり、1年間で求めている力まで到達できるのかが不安である。(鈴木貴 t)
- ・生徒は携帯電話などに興味・関心があるため、情報リテラシーやモラルは必要ではないか。配列など、どのように生徒に伝えられるかが大切になってくる。(岩城 t)
- ・1学年でどこまでの力が必要なのかは、個々の実態によって異なる。実物を活用したいが、校則では持ち込みを禁止していることもあり、どのように指導していくのかを悩む。特別日課との関係も考えて実施してほしい。(山口 t)
- ・原案通りでよい。進路状況をみると技術的なものを必要としている者は少ない。インターネット上のトラブルが増加しているため、情報リテラシーやモラルは必要だと考えている。生徒指導部でも考えていく必要があると認識している。(小原 t)
- ・原案通りでよい。卒業生の実態を考えると必要であると考えている。(小松 t)
- ・将来的には教科になることがあるのか。(祐川 t) →現状では何とも言えない。(金子 t)
- ・生活単元学習の中で実施する中で、授業時数を削減するのは厳しいことがある。(祐川 t)
- ・まずは生活単元学習の中で実施してみてもよいのではないかと。日常生活の中で、携帯電話などを当たり前で使うことが増えることが懸念される。そのようなときがきたときに、生活単元学習の中で学ぶべきことができなくなるのではないかと。内容の精査が必要になってくるのではないかと。(小林和 t)
- ・教科として新設するのか、生活単元学習の中で行うのかのメリットについて考察したが、教科として1単位にすると週1の時間が確保できる。生活単元学習の中で実施すると一定期間の中でしか学ぶことができない。誰が、どのように、どこまで何を教えるのかということが大切になってくるのではないかと。(野呂 t)

【④職業（キャリア）について】

〈確認〉

- ・総合的な学習の時間で、今年度の評価・反省を踏まえて1学年のみで実施する。

- ・2・3学年は生活単元学習（進路学習）中で実施する。題材配列の見直しが必要になる。

〈質問・意見〉

- ・原案通りでよい。1学年で実施してみて評価を行う。来年度の1学年で再度実施する。（上村 t）
- ・原案通りでよい。現在、生活単元学習のみで実施しているが不都合を感じたことはない。ただ、総合的な学習の時間で実施しているのも見てみたい。（鐘ヶ江 t）
- ・生活単元学習の会議で成果が出ていると聞いているため、原案通りでよい。（高橋 t）
- ・1学年の様子を見てみないと分からないが、原案通りでよい。（村瀬 t）
- ・実施しながら、2・3学年のことを計画することは大変なことである。計画を立てるのではあれば、じっくりと考えていく必要がある。時間的な余裕を持つことは必要ではないか。原案通りでよい。（田中 t）
- ・やってみないと分からないのではないかと。原案通りでよい。（大田 t）
- ・実際に1学年で職業の授業を担当しているが、メリットは帯で実施することで、生徒も教師も常に進路のことを考えることができる。普段の生活の中でキャリアの意識を持てる。ただ、準備は大変である。働くことだけではなくキャリア教育の一環である生きていくための力を身につける、人生を考えることを取り入れることが大切なのではないか。（矢倉 t）
- ・新2学年でも試しにやってみることで更に検証できるのではないかと。構想としては、5月の現場実習について学び、ソーシャルスキルを取り入れてコミュニケーション能力をつける、個別実習を経験した先輩方の成功や失敗体験の話を聞く、1年前の自分と見比べてみる、そして進路希望調査を行いたい。
3学年では、1・2学年では足りなかったところを補う形にしたい。予測としてはコミュニケーション能力をつけることが考えられる。社会で必要な力を身につける学習、労働教育、卒後支援、手帳、情報モラルなどを学ぶことを考えている。継続的に行うことが大切ではないか。（矢倉 t）

※⑤～⑦に関しては、まとめて討議することとなった。

【⑤委員会活動について】

〈確認〉

- ・時数増加と委員会の意味を踏まえると現行通りには行えない。
- ・帰りSHR後に設定。
- ・基本は月曜日の放課後に実施、担当分掌で決定してほしい。
- ・通知表は課外活動と押さえ、本来は所属だけの記入。
- ・委員会担当者の選定を考え直す必要がある。

【⑥部活動について】

〈確認〉

- ・委員会活動との兼ね合いもあるが、月曜日と木曜日の週2回実施が可能。
- ・部活動の顧問はボランティアではなく、各部に全職員が配置できるようにする。
- ・会議日は火曜日と金曜日とする。
- ・次年度の会議は、職員会議、運営協議会、学年部会、学科部会、分掌部会は教務部で設定する。
教科部会、形態部会、衛生委員会などの各種委員会は担当者間で適宜設定することになる。

【⑦朝の時間の使い方について】

〈確認〉

- ・朝の学習で取組める内容とする。

- ・国語や数学にすると、短時間で習熟度別のグループ学習のような効果的な指導は見込めない。
- ・HR単位で実施。

〈質問・意見〉

- ・個人的には、職員会議と運営協議会の2つの会議のみの設定でよいと感じている。
朝読書の資料は、参考資料として一読してほしい。(教頭)
- ・部活動がボランティアにしろ、全職員の配置にしろ、異動などで人の出入りの多い本校では、週2回実施となると、教師の本来の仕事となる授業づくりが疎かになるのではないか。(野呂 t)
- ・委員会活動や部活動があると、担当する教員の負担が増加するのではないか。担当者が重複しないような配置にしてほしい。(中川 t)
- ・朝の読書の取組みはよいのではないか。自分の興味・関心を持って、情報の共有ができるのではないか。
(小林睦 t)
- ・朝の読書を実施すると、漢字が苦手な生徒に平仮名の本を読ませることを薦めると生徒のプライドを傷つけることもあり、読書は良いことではあるがツールとしてこだわる必要性はないのではないか。生徒の実態もあるため、効果のある学年もあるのかもしれないが、朝の読書という縛りは必要ないのではないか。朝の読書の時間は、漢字練習やHRの一つとして捉えてよいと聞いているため、担任が準備することになると大変になるのではないか。(渡邊 t)
- ・現在、担当しているクラスでは、朝の時間を使用できるまで至っていない。各クラスに任せられるのはいいが負担が大きくなる。朝の学習は取り入れることはできると思うが、進級後は分からない。移動時間に余裕を持たせたい。(佐々木 t)
- ・現状のままでよい。朝の読書と決定せず生徒の実態に合わせてほしい。現在、担当しているクラスでは取り入れることはできるとは思う。(鈴木絢 t)
- ・現在、担当しているクラスで新聞記事について取組んでいるが、時間設定するよりは時間以外でできることが大切であると考えているため、時間設定しなくてもよい。(鐘ヶ江 t)
- ・漢字が苦手な生徒がいるからと言って、できないことをそのままにしておくことがよい訳ではない。
図書室での借用、寄宿舎でのブックン利用を通しての借用、辞書を活用して調べてもよいのではないか。
また、字の無い絵本を活用し生徒達が内容を考えることもよいのではないか。(後藤 t)
- ・資料に記載されているSHR含めた15分間での実施なのか。(渡邊 t)
→SHRの時間を増やし、体力づくりを0.7コマ(35分間)に設定し、更衣の時間を含めて考えていかなければならない。(金子 t)
- ・考え方や生徒の実態もあるため、読書する学級や漢字の学習を行う学級などの学校の特色ではなく学級の特色として捉えたらよいのではないか。(矢倉 t)
- ・現状としては、作業学習の残業や日誌の記入などで部活動に参加できていない生徒がいる。部活動の有無ではなく学校の日課をしっかりと行えなければならない。そのような生徒がいたら、全職員での部活動の指導ができるとは限らないのではないか。(高田 t)
- ・教員側の熱意は大切ではあるが、今後、教育課程などの変化が考えられる中で部活動の時間や会議の増加があると負担が大きい。現状、時間外での会議設定なども多い中、負担を大きくすることはよくないのではないか。(山田 t)
- ・委員会活動が月曜日の放課後となると、実際に部活動へ参加できるのは木曜日のみになるのではないか。(矢倉 t)
- ・朝の学習は学級裁量でよい。学校としてのおさえは必要ではある。

会議は思いつきで行うと他の会議と日程が重なってしまうため、ある程度のルールが必要ではないか。(野呂 t)

- ・会議日程の設定のルールが必要な点は大切な視点である。普通高校では、校務支援システムを活用して実践している。(教頭)
- ・部活動の顧問がボランティアであると、担当に偏りが生じる。各部に何人と決まりがあると、急なことが起きても生徒対応ができる。(阿部 t)

【総括】

- ・教育課程は学校教育の根幹で大切なことである。今後も何らかの形でこのような会議を実施したい。(教頭)
- ・1月に粗方のことを提案する。(金子 t)
- ・外部研修などに参加された先生方は他校の実態と本校の実態と比べて本校だとどのように取組めるのかを考えてほしい。また、公立学校はどの学校に通学しても同じ教育を受けられることが特色ではあるが本校に合う、今金だからできる教育課程を作り上げたい。(校長)
- ・冬季休業期間中は、研修、休養、3学期に向けての準備に努めてほしい。交通安全には留意して過ごしてほしい。(校長)

上記のとおり会議を開催した。

平成26年 12月 25日

北海道今金高等養護学校長 高嶋 利次郎 印